



仲間と共に

学校目標「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和7年8月28日

心を揺さぶる出会いに感謝！

校長 石田耕太郎

40日間の夏休みが終わり、元気な子ども達笑顔と声が学校へ戻ってきました。7月5日(土)「安全サミット」のおり、地域の方々の強い願いに基づいて、防犯・交通事故・水難事故から「命を守る」ことを学びました。そのおかげも事故等の報告もなく、484名そろって今日の日を迎えられたことに感謝申し上げます。

今夏私たちの記憶に強く残ったのは高校野球甲子園における地元県岐阜商の大躍進ではないでしょうか。潤沢に恵まれた練習環境ではない公立学校である岐阜商が、全国の名だたる強豪校を相手に打ち勝つ姿に、皆さんも多くの声援を送ったことと思います。本校の卒業生も大活躍しており、私も毎試合応援しておりました。また、岐阜商の大躍進を語る上で、横山選手の活躍も忘れられません。横山選手は生まれつき左手の人差し指から小指がありません。そのため、右手でバットを握り、左手は添える状態で打席に立ちます。守備につけば、右手にグローブをはめ、ボールを受け取った後、瞬時に左わきでグローブを挟み、右手でボールを取り出して投げます。こうした一連の動きを、まるで何事もないように行います。だからこそ、私たちはこうしたプレーができるまでになった、彼のこれまでの苦悩や想像を絶する努力を思い描くとき、心から声援を送っているのではないのでしょうか。彼がインタビューに答えた記事が心に残りました。

「自分と同じような子がいたら、そういう子でもこの場に立てるんだぞと示したかったし、そういう子が増えて、これからいろんなところで活躍しているのを見るのが楽しみ。そういった勇気を与えられるようにと甲子園にたっていたので、それが今日までできていたのならよかったと思います」

きっと、自分自身が周りの人との違いに気づき悩んだことでしょう。そして、周りの違いに注目した反応に悩んだことでしょう。そんなおり両親からプレゼントされた「さっちゃん のまほうのて (偕成社)」という本がどれだけ心を支えてくれたのでしょうか。そんな思いを私自身が本書を読んだときに思いました。だからこそ、私は「違い」を受け止め、受け入れ、考動できる自分になりたいと改めて強く思いました。本書は、本校の図書室にもあります。ぜひ、多くの方に読んでいただきたいと願っております。

8月22日(金)に「ふるさと三輪から夏の星を観る会」を開催しました。当日は時間いっばい星空に恵まれ、織姫星(こと座ベガ)や彦星(わし座アルタイル)等多くの夏の星々を観望いただきました。およそ150名の方々に参加いただき、誠にありがとうございました。ふるさと三輪は岐阜市一番の星空観望の最適地です。これから秋になり空気が澄んでくると星々の輝きがより一層増してきます。「ふっ」としたとき、ぜひ星空を見上げてみてはいかがでしょうか。

